二足のわらじ ― 自己の進路実現と「憧れの眼差しを受け続ける」立場
自分の成長（個別最適）＆仲間の成長（協働的な学び）―

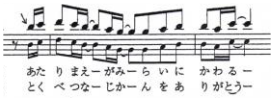
第 9 学年主任 佐藤 輝和

# こころ MIGAKI

東大崎 高倉 夢を語り 合いながら 西古川 志田

当たり前を見つめる ―有り難さに気づく，奇跡のストーリー―

「特別な時間を ありがとう」




＜ 大崎タイムス掲載記事 3月10日 ＞

(1) 第22637号　昭和22年5月12日第三種郵便物認可　日刊（月曜

## 新たな伝統育み巣立つ

### 古川西小中で第1回卒業式

大崎地方の多くの中学校で9日、卒業式が行われた。義務教育を終えそれぞれの道に進み始める生徒たちは両親や恩師らに感謝の言葉を伝え、3年間の思い出が詰まった学びやを後にした。

本年度開校した大崎市古川西小中では、第1回卒業生40人が卒業証書を受け取った。笹川清治校長は「凡事徹底を合言葉に心身を成長させた」と生徒たちをたたえ、「夢や志を持ち続け、学び尽くせぬ広き世界へ羽ばたくことを期待する」とはなむけの言葉を贈った。

在校生を代表し、8年の鈴木愛理さん(14)が「何もかもが新たな伝統の第一歩となる学校生活で、何事も最後までやり抜く後ろ姿は大きな目標だった」と先輩たちに感謝し、激励した。

これに対し、卒業生を代表して千葉南弥さん(15)が答辞。コロナ禍や学校統廃合など激動の3年間を支えてくれた恩師や両親、後輩、同級生へ感謝を伝え、「古川西小中で育んだ心を忘れず、困難に立ち向かっていく」と決意を述べた。

大崎地方の他の中学校では、12日にかけて卒業式が行われる。

卒業証書を受け取る古川西小中の第1回卒業生

### 3会場に献花台

大崎地域葬祭事業者連絡協

大崎地域葬祭事業者連絡協議会（北川宏道

### 11日の新聞は休みます

10日（日）は新聞制作を休みますので、11日は休ませていただきます。ご了承ください。

＜ 大崎タイムス掲載記事 3月16日 ＞

昭和22年5月12日第三種郵便物認可　大崎タイムス

## "喜びの春"かみしめる

### 県内公立高校で合格発表

2024年度県公立高校入試二次募集の合格発表が14日、全日制68校、定時制12校で行われ、合格した受験生たちが家族や友人と"喜びの春"を分かち合った。

全日制は定員1万3640人に対し、1万3425人が受験。倍率は0・98倍。定時制は定員960人に対し、374人が受験。倍率は0・39倍だった。

古川高では、くずついていた大気から一転して晴れ上がった午後3時、昇降口前に掲示板が掲げられると、自分の番号を見つけた受験生たちから歓声が上がった。家族や友人と抱き合ったり、ガッツポーズをしたりして、それぞれ合格の喜びをかみしめていた。

会場で合格発表の様子を見守っていた応援団と生徒会は、校旗をはためかせながら校歌を歌って歓迎。米林大雅団長（2年）が受験生たちに対し「入学を心待ちにしている」と祝福したほか、吹奏楽部が春にふさわしい爽やかな楽曲を奏でエールを送った。

大崎市古川西小中出身の後藤芽衣さん(15)は「オープンキャンパスで見た先輩たちが格好良く、憧れて志願した。高校では勉強と部活の文武両道で頑張りたい」とうれしそうな表情を浮かべていた。

二次募集を行う高校は15日から19日まで出願を受け付け、21日に学力検査を実施する。

自分の番号を見つけ涙ぐむ受験生と保護者（古川高）

## 大崎地区職業教育拠点校

### 県 24年度内着工へ

県議会2月定例会は13日、鹿島台商業高（大崎市鹿島台広長）の敷地内に整備する大崎地区職業教育拠点校の初期建設費約60億円を盛り込んだ新年度予算案を可決、閉会した。2024年度内に新校舎と各実習棟の建設工事に着工し、26年度完成を目指す。

同校は、生徒数の減少を踏まえて松山高、鹿島台商業高、南郷高の3校を再編統合し、「食」をテーマとした専門教育を行う職業教育拠点校として27年4月に開校予定。

施設整備計画は21年度の大規模事業評価を

## レクダンス楽

### 古川 60～90代の

簡単な振り付けのレクリエーションダンス体験会が8日、大崎生涯学習センター・パレットおおさきで開かれた。60代から90代までの女性約130人が参加し、さまざまな楽曲に乗せて体を動かした。

大崎市社会福祉協議会古川支所による生き生きシリーズ事業。4年ぶりに再開した今回は、健康増進や交流を図りながら誰もが楽しめるレクリエーションダンスを実施。講師は、古川老人福祉センターの女性約130人が参加し、さまざまな楽曲に乗せて体を動かした。

初めに佐々木さんが「レクダンスは簡易性、自由性、創造性の三つ